

**令和 8 年度第 1 回長野市放課後子ども総合プラン推進委員会
会議要旨**

日 時 令和 8 年 7 月 15 日(水) 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
場 所 第一庁舎 7 階 第一・二委員会室
出席委員 中山委員長、竹田副委員長、押鐘委員、窪田委員、竹村委員、服部委員、
細井委員、山口委員、渡邊委員
事務局出席者 宮下こども未来部長、小宮山こども・若者政策課長、山口学校教育課長、
青木こども・若者政策課長補佐、宮澤こども・若者政策課主査、
前島こども・若者政策課主査、中村こども・若者政策課主事、
内田指導主事、中山指導主事、小山職員
傍 聴 者 山崎 裕子市議
報道機関 2 社（信濃毎日新聞社、長野市民新聞社）

発言者	内容
事務局	1 開会
委員長 宮下こども 未来部長	2 挨拶
	3 自己紹介 委員、事務局職員
小宮山課長	4 議事 (1) 長野市放課後子ども総合プラン事業の実施状況等について 資料 1 により説明
服部委員	《質疑応答》 主任児童委員をやっており、児童センターなど訪問させていただいている。先日三本柳児童センターに行ったところ 4 月の申し込み以降、1 年生は既に 10 人以上増えているということで、ますますセンターの人数が増えていてクラスで来ていないのは 1 人ぐらいだということだった。確かなことはわからないが、青木島のセンターは状況によってお断りできると聞いた。希望者を全員受け入れなければならないということだが、そうでない施設もあるようで、その線引きはどのようなになっているのか。
青木補佐	資料の 9 ページ、希望児童の受入校区拡大にあるように三本柳と青木島の校区で少し状況が違っている。基本的には希望児童も全施設で受け入れしていきたいというところではあるが、青木島校区では、子どもプラザでは受入ができていないが児童センターではできていない状況。今

	後、青木島児童センターについても、施設の方や利用状況も確認しながら、希望児童を是非受け入れられるように進めていきたい。
服部委員	三本柳児童センターのようにどんどん希望児童が増えていって全員受け入れるとすでに満杯の状況なのにどのような考えでとっているのかと思う。クラスの中で自分だけ行かないから帰っても遊ぶ相手がいないと、1か月2千円ほどなら入るといような、大変失礼な言い方をすれば安易な考えで希望する人もいると思う。そういうことで希望した方を全部受け入れるのはどうなのかと思う。
青木補佐	先ほど委員からもお話があったとおり登録児童数もかなり増えてきているという厳しい状況。基準や施設の状況、職員等からも話を聞きながら受け入れているところ。 実際のところの児童数は減ってきてはいるが、登録児童数は増えており、青木島児童センターについては今までそうだったが、子どもたちの人数も多いという中で職員の体制も厳しいところもあり、希望児童を受け入れるには厳しい状況だと施設の話も聞いている。希望児童はだいたい2.3%ぐらいということで割合的にはそこまで多くない状況にはなっているので、施設の職員にもご理解をいただきながら希望児童を受け入れるという市の方針を進めていけたらと考えている。 青木島児童センターについては館長と具体的に話をしており、できれば来年度からは、希望児童の受入をしていけたらと話をいただいているので、今後調整させていただきながら進めていきたいと考えている。
小宮山課長	補足ですが、基本的には施設の基準の面積があるので、そういった部分を満たしているところはできるだけという形になっている。 三本柳についても、年度当初は利用を希望する方が非常に多い状況で、年度が進む段階で少しずつ減っていく。また、学年が上がっていくにつれて減っていく状況ではある。 希望される方をできるだけ受け入れられるように学校側とも協力しながら、許せる範囲でという形にはなるが、使える施設として基準が満たせるようであれば、やはり受け入れていくようにしたいと思う。 青木島については、プラザは小学校の施設なので大丈夫だが、センターの方は独立した建物なので、ある程度受け入れられる人数も決まってくると思う。そういうところで若干、今の施設に差が出ている状況である。
委員長	ただ、全国的にやはり課題で、今おっしゃっていただいたことはすごく重要だと思う。放課後児童クラブと児童教室を一体でやっている中で、基本的には利用したい人は受け入れるという方針でやっている中で人的環境や物理的環境で子どもたちが本当に狭い中で過ごすという状

	況は長野市だけではなく課題になっている。子どもたちにとって安心・安全でいられる、いわゆる快適な環境はどういうものかというところで、やはり建物の広さに対する人数がどの程度が適正なのかというような研究も始まっていて、それと比べると満たしていない施設が多い状況になっているというところがあるので、すぐに建物を大きくするのは無理だとは思いますが、学校で少し対応してもらい、スペースを増やしていくということは必要になるし、人が足りないことに関してはずっと課題ではあるがそういった声もすごく大事である。
副委員長	最近、主任児童委員として学校を回らせていただくと支援学級が増えているなというのが実感としてある。そこを含めると児童センターやプラザに支援学級の子どもたちも来るということで加配対応されるということではあるが、やはり最近人手不足な感じが否めない。そういう部分の対応についてはどのような形になっているのか、また現状、人員的には足りているのか。
青木補佐	確かに支援が必要なお子さん、配慮が必要なお子さん等が増えているところ。まず、受け入れるにあたっては学校と連携を取って、どういったお子さんなのか、どういった配慮が必要なのかを確認して受け入れ体制を整えていく。実際に加配が必要になれば、運営をしている受託事業者をお願いをしてしっかりと人員は確保してもらっている。 実際、研修等も頻繁に実施しており、その辺も含めて対応しているところ。人員が足りていない、困っているという話は特になく状況で、しっかり対応してもらっているところである。
副委員長	最近の開館時間、特に閉館時間についてはどのようにになっているのか教えてほしい。
青木補佐	閉館時間について、受託事業者のほうで利用者のニーズ調査をとらせてもらい、時間について保護者のニーズが高いところについて、施設とも確認をとりながら調整して延長施設を増やしていくという状況。実際の具体的な数とすると、基本的には平日の夕方6時までが6施設。午後6時半まで延長しているのが68施設。午後7時までは7施設である。
副委員長	親御さんのニーズというのは難しいというか、遅くなればなるほどありがたいという方もいらっしゃる。本当は親子のコミュニケーションをしっかりとってほしいなというところではあるが、仕事の都合上そういうニーズも高いのかなとは聞いている。またそういうところを的確に掴んで、考えてほしい。
小宮山課長	市の方にも例えばみどりのハガキ等で開館時間を延ばしてもらえな

	いかというような話が来ている。先ほど説明させていただいたようにニーズ調査をやって、ニーズの高いところについては開けていくような形はとっているが、時間を延ばすとそれだけ人員も必要になってくるといふこともあり、希望があったからすぐという状況にはなっていない。 ただ、今お話がありましたとおり、希望をきちんと把握しながら、一方で人員配置というところも考えながら進めてまいりたい。
山口委員	私も働いて子どもを預けている保護者の視点としても、施設の時間とかお昼の手配をしていただけるという色々なハード面を整備されている気持ちが伝わってきてありがたいなと思いながら話を聞いていた。 ただ副委員長がおっしゃったとおり、お子さんにとって考えた時に、時間に関してはやはり親子の関係性の愛着の問題とかも含めて、やっぱり大事にしたいところ。そう思った時にサポートセンターの紹介とかを常にされていると思うが、各施設に掲示しておくとか職員の方にも周知して紹介するなど少し取り入れていくといいのかなと思う。
渡邊委員	ファミリーサポートセンターを運営させていただいているが、施設の職員の方が高齢で少なくなっているというのと同時に、こちらの提供会員をやってくださっている方も皆さん高齢になり徐々にお辞めになっていて、仕事をお持ちの方が多く、新しく提供会員として活動してくださる方が本当に少ない状況。以前に比べると開館時間が長くなったので迎えに来て預かってくださいという声は少なくなっておりますが、支える側の人間も非常に少なくなっていて困っていらっしゃるご家庭の方がいても、お断りしているパターンもある。これが現実。
服部委員	アドバイザーのことについてですが、更北地区は交通の便が悪いから、学生さんに来てもらおうと思っても足がないから来れないということで学生さんには来てもらえてないという話ですが、学生さんがもう少し活躍できるような交通の便が悪いところにも行けるような援助はないのかと思うことが一つ。 もう一つはアドバイザーの説明会が3回あるんですが、説明会があるから登録に来てではなくて、例えばこちらから高校や公民館にアドバイザーを募集してますというようなもっと丁寧な募集の仕方はないのかと思っている。
青木補佐	一点目ですが、資料にもありますがアドバイザーの手当や支払いは受託事業者にさせていただいている。実際の活動費は基本額で1500円、遠距離については基準があるんですがプラス500円というような対応をさせていただいているところ。学生については委員がおっしゃられたとおり、車を持っていない方が公共交通機関じゃないと行けないということで、アドバイザー活動も近隣の校区が中心になっている現状ですが、

	その辺もご意見をいただきましたので、受託事業者の方にもこういう意見があるという話をし、検討させていただきたいと思う。
内田指導主事	アドバイザーの募集についてですが、確かに公民館といった所に掲示していくということはこれからしていかなければいけないかなと思っている。登録は今は3回だけではなく個々にも対応している。公民館でこういう活動をしているので、その時に合わせて登録したいので来てもらえるかというような要望にもできるだけ対応するという事で、活動場所に行って実際に登録してもらっている。学生も昼休みに登録したいというような連絡をいただければ、その時間に合わせて登録というように少しずつ広げてきてはいる。公民館等の掲示についてもこれからは考えていきたいと思う。
委員長	学生は公共交通機関で足がないというだけでなく、授業が終わってからのので時間的にもあまり遠くで話があったとしても行けないという状況なのでどうしても大学周辺の施設ではできるがそれ以外は夏休みとかそういう長期休みになってしまうと思う。 (2) 令和7年度長野市放課後子ども総合プラン事業に係る自己評価の結果について
青木補佐	資料2により説明
服部委員	《質疑応答》 私は三本柳の総合プランの運営委員をやっていますが、年度当初に1回あって後は何もなく、名前だけかなと思ってしまう。また、更北地区で民生児童委員をやっているが先日会長がセンターとプラザの違いがわからず、みんな知っていることかと思ったら、知らない人が多いと言われた。それで民生児童委員の定例会に来て説明していただくことにしたが、どういう風になっているか知らなかったり、先ほどお話ししたように1年生がみんな利用しているとかそういう地域の現状、子どもたちの現状を少なくとも民生児童委員は知っていないといけないのではないかなと思うようになった。そういう点で是非、地域の人たちにプラザとかセンターの実情を知ってもらう機会をとっていったほうがいいのではないかなと思う。
青木補佐	先日委員やその団体からも出前講座ということで申請をいただき、更北地区については8月に我々の方からも説明はさせていただくことになっている。 また周知方法とすると、今回のこの推進委員会につきましても実際の

宮下こども 未来部長	実施状況等の資料など含め公表の資料となっておりますので、確認いただける状況になっているところ。各施設すべての所に出向いてというのは難しいが、このように公表させていただいている状況。 補足になりますが、私たちもこういった活動を地域や皆様方のご協力をいただきながら進めておりますし、地域の皆様方が積極的に関与していただくことで、子どもたちにより良い環境が提供できるのかなと感じている。その中で民生児童委員や皆さんも含めて地域の役員の方などにも状況を知っていただくのは本当に大切だと思っている。ただ、私どももどこまで自分たちが情報提供できるかというところもある。竹田副委員長が部会長されているような逆に組織の方からご要望というか、何かの研修や会議に若干お時間を頂けるようなところがあれば、私どもも出向いてお話をさせていただいたり、積極的にやっていきたい。それがまた皆様方のご協力につながると思っている。 こちらも決して情報を隠しているわけではなく、状況を知っていただいてご協力をいただきたい。 民生児童委員だけではなく、何か団体の方でこういったことに興味といたしますか情報を聞きたいということがあれば、是非オファーをいただければありがたいと思っている。
副委員長	民生児童委員の立場から言わせていただくと、主任児童委員は結構プラザ、児童センターの職員が多いので主任児童委員は大体この放課後のプランについてはわかっていると思う。 またこの自己評価集計結果は非常によくまとめていただいて良くできている。特に施設コメントについては、他の施設の現状の研修についてはなかなかわからないという感じもあるので、是非とも集計結果を全施設、全職員等に目にさせていただいて、各館の中でうまくいっている部分、足りない部分等について研修等していただければ非常にいいと思います、読ませていただいた。
青木補佐	今、委員からもお話をいただきましたので、こちらから受託事業者を通して資料を提供させていただく。またあわせて、資料をホームページにもアップする対応をとらせていただく。
細井委員	本当に施設コメントでもまとめてもらっていいなと思う。特に8ページのところに「子どもとの信頼関係をつくることが支援の第一歩」とあり、そのとおりだなと思う。先ほど副委員長からでていた特別支援学級が増えているというのがあるのですが、本当に小・中学校でも増えている状況。その子どもたちに対応する場所であるということでご理解を頂ければと思う。子どもとの信頼関係というところからすると、どの場面でもそうなのですが、特に対面で話して、子どもの様子を伝えると先ほ

	どありましたが、帰り際に支援員さんが「今日、この子はこういうことをして楽しんでたんですよ。」「誰々とこんな風な遊びをしてとても楽しそうでしたよ。」そういうことを保護者に伝えることがとても大事だと思う。色々な状況もあって障害を抱えていて、配慮しなければならない子ども達もたくさんいる。そこも受け入れていただいて大変ありがたいと思う。 私的な話になりますが、PCウォーカーといって、うちの孫はなかなか歩行ができないのでそれを使って学校に行き、プラザを利用している。導尿という医療行為があるので看護師を派遣してもらわないと学校にもプラザにも行けず、それをご配慮いただきながら学校、そしてプラザという礎を作っていただいてあり、今は4年生になるのですが、学校もプラザも楽しく行っているような状況。そんな状況の中で色々な子どもたちに対応していただいてとても嬉しいなと思いますし、これからもそんなふうな対応をしていただければ、ありがたい。私事になりましたが、そんな状況もあるということでご理解いただければと思う。
竹村委員	12 ページにあります、多様な体験活動、交流等の機会の提供に関するもののアンケート結果も非常に素晴らしいと思う。特に交流等の機会というところに関しまして、私が所属して勤務しているところでも様々なアドバイザー活動だったり、交流活動を行っている。その中でさすがにこの暑さなので今はやってはいないが、6月ぐらいまで学校の校庭を使わせてもらい、アドバイザー活動ではないが、外遊びを数か月間実施した。おとなしい子どもは普段、外遊びだったり体を動かして活動することは参加しないが、学校の校庭に行くということになった途端に参加したいということで、体を動かす活動に参加した。やはり学校の校庭の開放的な場で遊べるということは非常に魅力的だったのではないかなと思う。 そういった所を是非他の施設でも増やして、交通事情であったり、条件でできないことは重々承知しているが、増やしていただきたいなというところ。あと外からいらっしゃるアドバイザーでも課外活動など、外でできる遊びを提供していただける方たちもいらっしゃるのではないかなと思うので、そういったことも検討していただけたら嬉しいと思う。
青木補佐	校庭の利用というところですが、実際に子どもプラザについては、特に学校の空き教室などを利用して受入れをしている施設でありますので、体育館や校庭もすぐ近くにあるため、天気の良い日等については放課後、そこも利用させてもらっている。また少し離れているような児童センターについては、施設の方の考えもあるが、距離とか、平日の放課後ということになると移動してお迎えに来た時にいないとなると大変というところもある。子どもたちの状況に応じて校庭利用はできるところもあるが、平日の夕方は難しいという意見もいただいている。た

委員長	だ長期休業中、夏休みは暑いので難しいが、春休みなどは施設の方でもできるだけ広い所で遊ばせたいということもあり、そういった時間も取り入れながら施設の方で活動いただいているところ。 アドバイザーについても外遊び等が得意な方もいらっしゃるので、施設の館長に確認してもらい、今日はこういった活動をしたいなとか、子どもたちの意見をききながら取り入れているところ。 委員長になって毎年評価を見ているが、毎年 100%のところはずっと 100%で、上がらないところは相変わらず上がらないような感じがある。 これを毎年見ていく中で昨年も言った気がするが、聞き方として同じように聞いていくのはいいが、100%のところはもうずっと 100%で変わっていくことはないと思う。いまいち上がっていかない 70%、80%のところに関してはうまくやれているところと、どうしてうまくいかないかというコメントを入れてもらえると、この場で話し合う意味があるかなと思う。 先ほど副委員長からもあったように今後各施設に配布するようになったら、やれているところはどんなふうに行っているんだとか、やれていないところもこんな風にやればいいんだと共有できていくと思う。ただ毎年配っていると、結局毎年同じで、昨年度と何が変わったのかわからないような物が毎年送られてきても、だんだん見なくなってしまうので、課題がある場所に関しては、うまくやれているところ、うまくやれていないところとか、その理由について書いてもらう風にして、できれば課題になっているようなところに関するコメントを中心に載せてもらえると、この会で議論する意味がすごく出てくる。来年以降そういったことを意識してやってほしい。
事務局	5 その他
	6 閉会